



福江中学校
保健室 No.6
令和5年11月6日

薬物乱用防止教室

10月25日(水)、3年生が薬物乱用防止教室を行いました。学校薬剤師の大下さん、田原警察署の久田さん、三河ダルクの方々に、薬物の実態や乱用することの怖さについて講演をしていただきました。

<講演内容>

<学校薬剤師 大下さん>

- 自分で使っている薬を、容易に他の人にあげてはいけない。
人によって合う、合わないがある。
- オーバードーズとは、薬を服用する時の1回の量(DOSE)が過剰(OVER)であることや薬物の過剰摂取に及び行為のこと。
近年、10代の青少年に増えており、死に至ることもある。
- 薬は適切な用法・用量で服用する必要がある。



<田原市役所 久田さん>

- 大麻や覚醒剤は、ネットで広まることがほとんど。「葉っぱ」や「アイス」等の隠語で呼ばれている。
- 薬物乱用は法律で禁止されている。薬物乱用をして警察に捕まると、SNSで簡単に自分の名前や写真等が出回る場合もある。絶対にやらないように。
- 違法薬物の使用は再犯率がとても高い。特に女性が多い傾向。

<三河ダルク>

三河ダルクは、薬物やアルコールなどの依存症から回復したいと望む人たちの手助けをする支援施設。利用者の方から依存症についての体験談をお聞きしました。

- 覚醒剤を初めて使ったときは、「こんなもんか」と感じた。しかし簡単にはやめられず、「薬物が第一」という考えになった。仕事や恋人、お金よりも薬物を優先し、お金がないと窃盗もした。薬物をやめて2年半たった今でも、自分が薬をやらない自信が無い。
- 中学校3年生～38歳まで違法薬物を使用していたが、38歳の時、突然警察が家に来て捕まった。奥さんや子どもにも会えなくなり、何もかも失った。そこで初めて、自分の考えがおかしかったと気がついた。そんな今でも、まだ薬が使いたいという気持ちがある。

<生徒感想>

危険な薬は違法薬物のみだと思っていましたが、普段使っている風邪薬や塗り薬も、使い方や使う量によってはとても危ういものだと分かりました。ただ、違法薬物に気を付けるだけでなく、安全な薬でも使用方法を間違えないようにしようと思いました。

違法薬物は、秘密の取引でしか手に入らないものだと思っていましたが、SNSでも手に入れることができる場合があると聞き、一瞬の幸せのために、一生の人生を無駄にしてしまっただけでは意味がないので、絶対に使わないようにしようと思いました。

3名の方は、私と同じ年齢で違法薬物を始めていてびっくりしました。体験談を聞いて、違法薬物を使うことで、大好きな人や家族と離れたり、犯罪者という名が一生残ってしまったりすることの恐ろしさがありました。